

慶應大阪シティキャンパス 夕学サテライト講座

《 2013 年度後期 》 サテライト 受信スケジュール

慶應大阪シティキャンパス「夕学サテライト講座」は、東京丸の内シティキャンパス（慶應 MCC）で行う定例講演会「夕学五十講」のうちの 15 講座を、インターネット回線を通じてライブ中継により、リアルタイムで受講するものです。

時 間：18:30～20:30（開場 18:00）
講座料：全 15 講演一括申込 25,000 円、

2013/9/6（金）11:00 より申込受付開始（Web / Fax）

会 場：慶應大阪シティキャンパス（KOCC）
個別申込 1 講演 @ 2,000 円*

※個別申込は、一度のお申込枚数 3 枚につき 500 円割引制度有。

* 下記は 2013/8/30 現在の調整予定です。事情により講演者・日程等が変更となる場合がありますことをご了承ください。

1. 講演スケジュール（全 15 講演）		開催日・講師名・タイトル	主催：慶應学術事業会
① 10/2 佐藤優 安倍外交は国益を体現できているか	⑥ 10/31 橋爪大三郎 ビジネスパーソンよ、宗教を学べ	⑪ 12/5 小幡績 アベノミクスとバブル	
② 10/8 楠木建 経営センスの論理	⑦ 11/7 三浦雄一郎 人生はいつも「今から」 ～80 歳エベレスト登頂を終えて～	⑫ 2014/1/9 出雲充 ミドリムシが地球を救う	
③ 10/15 細谷功 『組織の老化』のメカニズムと 対処法	⑧ 11/12 安藤忠雄 創造力を磨く	⑬ 1/21 山崎亮 問題解決メソッドとしての コミュニティデザイン	
④ 10/16 千住真理子 生命の音、音の力	⑨ 11/21 駒崎弘樹 社会を変えるを仕事にする！ ～社会起業家という生き方～	⑭ 1/28 國領二郎 ソーシャルな資本主義	
⑤ 10/29 澤上篤人 個人の長期投資が日本を育てる	⑩ 11/27 池内了 科学は終焉するのか？ ～「科学の限界」に直面して～	⑮ 1/31 篠田謙一 人類 20 万年の旅と日本人の起源	

2. 講師&講演紹介

日付の右横く >内は 2013 年度後期夕学講座の講座テーマです。

■10 月 2 日（水） < 気鋭の論客に聞く >

佐藤 優（さとう まさる） 作家・元外交官

「安倍外交は国益を体現できているか」

一見平和な世界の裏で自国の為に外部の搾取と収奪を行う新帝国主義が忍び寄る。複雑化する環境で日本政府は国益を守れるのか？外交とインテリジェンスの専門家佐藤氏ならではの目線で東アジア情勢や CIA スパイ事件等を斬る。

外務省の職員時代は、ロシア情報収集・分析のエキスパートとして活躍、「外務省のラスプーチン」「戦後最強の外交官」の異名もあった程。現在はご経験を活かし、作家として活躍中。『動乱のインテリジェンス』（慶應義塾大学大学院教授・手嶋龍一氏との共著）他、著書多数あり。

■10 月 8 日（火） < 先が見えない時代の経営論 >

楠木 建（くすのき けん） 一橋大学大学院国際企業戦略研究科 教授

「経営センスの論理」

スキルでこなせる仕事は他者に任せればよい。一方で経営にはビジネスの本質を抉りだし特殊解を見つける為のセンスが必要で、その根底を探ると好き嫌いや思いなどのこだわりがある。大人気の楠木教授がセンスから経営論を展開する。

1992年に一橋大学大学院商学研究科博士課程修了。イノベーションや競争戦略の視点から、企業が競争優位を構築する論理について研究されている楠木先生。ベストセラーの著書『ストーリーとしての競争戦略』は、あまりにも有名ですが、新著『経営センスの論理』も、話題に。

■10月15日（火）　＜先が見えない時代の経営論＞

細谷 功（ほそや いさお）　　ビジネスコンサルタント

「『組織の老化』のメカニズムと対処法」

生物同様、組織も後戻りできず年齢経過と規模の拡大で活力が奪われていく。定例会議やルールの増加は老化のサイン。地頭力で世間を席卷した細谷氏が5年ぶりに登壇、様々な経験から導いた組織の老化現象のメカニズムと対策を語る。

東京大学工学部を卒業後、（株）東芝を経てコンサルティングの世界へ。著書『地頭力を鍛える』はビジネス書として大きな話題になり、当時夕学講座にもご登壇いただいた。今回は、細谷さんが二十年以上にわたって経験してきた、会社という生命体に対する観察結果の集大成としての新著『会社の老化は止められない』を出版されたことを受け、組織の不可逆的なメカニズムとそれをリセットするための対処法を伺いたく、二度目のご登壇を願う。

■10月16日（水）　＜文化の力を信じる＞

千住 真理子（せんじゅ まりこ）　　ヴァイオリニスト

「生命の音、音の力」

デビュー35周年を迎え演奏家として脂が乗ってきた時に襲った母の発病や東日本大震災。周囲の環境は激変した。演奏活動、看護や被災地での慰問の中で、命、音楽、芸術について考えてこられた千住氏との一期一会の時間が始まる。

2歳半よりヴァイオリンを始める。全日本学生音楽コンクール小学生の部全国1位となり、12歳の時にNHK交響楽団との共演でデビュー。音大ではなく、慶應義塾大学文学部哲学科に進むが、卒業後は87年ロンドン、88年ローマデビューを果たす。現在、国内外での活躍はもちろん、社会活動にも関心を寄せている他、講演会やラジオのパーソナリティを務めるなど、多岐に亘り活躍。著書も多数。日本画家の千住博氏と作曲家の千住明氏は実兄。

■10月29日（火）　＜先が見えない時代の経営論＞

澤上 篤人（さわかみ あつと）　　さわかみ投信株式会社 取締役会長

「個人の長期投資が日本を育てる」

市井に眠る預貯金791兆円の10%を長期投資すれば経済活性化と自分年金作りが進む。前回登壇の2006年の最終日経平均は1.7万超、その後の環境激変にも関わらず純資産・口座数共に順調な成長を続けるさわかみファンド会長が持論を語る。

愛知県出身。アナリスト兼ファンドアドバイザーを務めた後、ピクテ・ジャパン代表を経て、1996年に、さわかみ投資顧問を設立。1999年には日本初の独立系投資信託会社である、さわかみ投信を設立。現在、「さわかみファンド」1本のみの運用で、純資産は2863億円、顧客数は11万人を越え、日本における長期運用のパイオニアとして熱い支持を集めている。

■10月31日（木）　＜気鋭の論客に聞く＞

橋爪 大三郎（はしづめ だいさぶろう）　　社会学者

「ビジネスパーソンよ、宗教を学べ」

宗教は教養や知識の問題と思う日本人は極めて特殊な存在。ヨーロッパ人もインド人も中国人も無意識に己の宗教が持つ発想や行動様式に支配されている。社会学者の橋爪氏がグローバル世界を読み解く鍵となる宗教理解の重要性を説く。

東京大学大学院社会学研究科博士課程単位取得退学。1996年～2013年3月まで東京工業大学教授。理論社会学、宗教社会学等を専門とし、宗教、社会はもちろんのこと、政治・経済、思想・哲学等幅広い分野で言論・著述活動を行っている。『ふしぎなキリスト教』（大澤真幸氏との共著）は、新書大賞2012を受賞。また、慶應MCCで開催した講座を書籍化した『世界は宗教で動いてる』が話題に。

■11月7日（木）　＜素晴らしき哉人生＞

三浦 雄一郎（みうら ゆういちろう）　　プロスキーヤー、クラーク記念国際高等学校校長

「人生はいつも「今から」～80歳エベレスト登頂を終えて～」

想いがあれば、挑戦はいつでもできる。肉体年齢が70歳近く加齢する標高8,848mでは、80歳の体力年齢は想像を絶する150歳。75歳の登頂後の全治6カ月の骨折を乗り越え3度目の成功を果たした三浦氏が再登壇。その言葉の重みが心に響く。

1932年青森市生まれ。1985年に世界七大陸最高峰のスキー滑降を完全達成後、2003年に70歳7ヶ月で次男とともにエ

ベレスト登頂、当時の世界最高年齢登頂記録樹立。2008年に75歳7ヶ月で、2度目のエベレスト登頂を経て、今年5月に、3度目のエベレスト登頂で世界最高年齢登頂記録更新されたことは記憶に新しい。アドベンチャー・スキーヤーとしてだけでなく、行動する知性派また教育者として国際的に活躍中。

■11月12日（火） <文化の力を信じる>

安藤 忠雄（あんどう ただお） 建築家・東京大学名誉教授

「創造力を磨く」

今年も美術館や壁面緑化プロジェクト、震災遺児育英基金運営と精力的に活動中の安藤氏が再登壇。経済・自然環境、国際関係図と日本の位置取りが変化する中でこれからの日本、建築そして私達に必要な力について持論を語っていただく。

1941年大阪生まれ。独学で建築を学び、1969年に安藤忠雄建築研究所を設立。近年、リーマンショック、東日本大震災、東アジア情勢の緊張など、日本と世界を取り巻く環境の変化が大きい中、建築を通して「世界の中の日本」を考える視点をお持ちの安藤氏。建築家として著名なだけでなく、2011年の東日本大震災復興構想会議 議長代理を務められた他、現在は「桃・柿育英会 東日本大震災遺児育英資金」実行委員長の務めも務められている。

■11月21日（木） <市場をつくる、社会をつくる>

駒崎 弘樹（こまざき ひろき） 認定NPO法人 フローレンス 代表理事

「社会を変えるを仕事にする！～社会起業家という生き方～」

社会を変えたい。医学部出身でも保育士でもない独身男性が始めた病児保育は150名体制で収入5億円のNPOに成長し、子育てや働き方の問題解決を目指す。駒崎代表理事がその軌跡、民間から社会を変える為のアプローチと方法を熱く語る。

1979年生まれ。慶應義塾大学総合政策学部を卒業後、「地域の力によって病児保育問題を解決し、育児と仕事を両立するのが当然の社会をつくれなにか」と考え、フローレンスをスタート。日本初となる「共済型・非施設型」の病児保育サービスや、待機児童問題の解決のための空き住戸を使った「おうち保育園」を展開。現場発の解決策を実践される一方でも、政治や行政にも積極的に意見具申をされている駒崎氏より、社会を変えるために企業やそこで働くビジネスパーソンが何をすべきかを学びたい。

■11月27日（水） <気鋭の論客に聞く>

池内 了（いけうち さとる） 総合研究大学院大学 理事・教授

「科学は終焉するのか？～「科学の限界」に直面して～」

原理的、物理的条件、あるいは経済的理由から限界に直面するという科学はどこに向かうのか。収穫逦減期にあると言う説は本当で、そうだとすればその克服は可能なのか？池内教授が科学の限界と社会との調和について考察していく。

1944年兵庫県生まれ。京都大学大学院理学研究科博士課程修了。理学博士。研究テーマは、宇宙の進化、銀河の形成と進化、星間物質の大局構造などだが、現在は、科学・技術・社会論に傾注し、新しい博物学を提唱している。科学エッセイや科学時事を新聞や雑誌に執筆するなど、科学者の立場から科学と社会の接点となるような啓蒙的な活動も行い、著書も多数。1993年『お父さんが話してくれた宇宙の歴史』で産経児童出版文化賞、日本科学読物賞を、1997年『科学の考え方・学び方』で産経児童出版文化賞、講談社出版文化賞をそれぞれ受賞。本講演サブタイトルの『科学の限界』も2012年に筑摩書房（ちくま新書）より出版されている。

■12月5日（木） <気鋭の論客に聞く>

小幡 績（おばた せき） 慶應義塾大学大学院経営管理研究科、ビジネス・スクール 准教授

「アベノミクスとバブル」

2013年も師走を迎えたこのタイミングに、反アベノミクスの論客を代表する小幡准教授とともにアベノミクスの一年間を振り返ってみたい。その上で目先の論議ではなく、長い目で見た日本の経済政策について持論を展開していただく。

1967年生まれ。東京大学経済学部卒業後、大蔵省（現財務省）入省。退職後、IMFサマーインターンを経て、一橋大学経済研究所専任講師を務め、ハーバード大学経済学博士（Ph.D.）を取得後、現職。専門は、企業金融、行動ファイナンス、NPO、政治経済学。東洋経済ONLINEで連載中の「東大首席卒業のファイナンス学者が斬る 行動する経済学者 小幡績の視点」も好評。

■1月9日（木）　＜市場をつくる、社会をつくる＞

出雲 充（いずも みつる）　株式会社ユーグレナ　代表取締役社長

「ミドリムシが地球を救う」

「世界の貧困を解決する」そんな大学時代からの志を実現する鍵は微細藻のミドリムシにあった。研究開発と製品化に向けて起業し、大量培養の成功、さらに上場へと着実に前進する出雲社長に、社会と未来を変え仕事について聞きたい。

1998 年東京大学文科三類入学。在学中に米国スタンフォード大学で開催された「アジア太平洋学生起業家会議」の日本代表を務め、3 年進学時に農学部へ転部。卒業後、東京三菱銀行勤務を経て、米バブソン大学「プライス・バブソンプログラム」修了、経済産業省・米商務省「平沼エヴァンズイニシアティブ訪米ミッション」委員を務める。ミドリムシに着目し、世界の食糧問題や環境問題を解決するため、2005 年 8 月株式会社ユーグレナを創業し代表取締役に就任。同年 12 月に微細藻ユーグレナ（和名：ミドリムシ）の世界でも初となる食用屋外大量培養に成功。2012 年上場も果たした若手起業家。

■1月21日（火）　＜市場をつくる、社会をつくる＞

山崎 亮（やまざき りょう）　株式会社 studio-L 代表、京都造形芸術大学教授

「問題解決メソッドとしてのコミュニティデザイン」

住民との信頼関係を構築し街づくりに巻き込むことで、地域の抱える課題を解決するという「コミュニティデザイン」。その実践者である山崎氏が、成熟社会の問題解決メソッドとして、合意形成と主体性喚起の方法論を解説する。

1973 年愛知県生まれ。大阪府立大学大学院および東京大学大学院修了。博士（工学）。

建築・ランドスケープ設計事務所を経て、2005 年に studio-L を設立。地域の課題を地域に住む人たちが解決するためのコミュニティデザインに携わる。まちづくりのワークショップ、住民参加型の総合計画づくり、市民参加型のパークマネジメントなどに関するプロジェクトが多い。著書『コミュニティデザイン』では不動産協会賞を受賞した。

現在、大学生が「ふるさとを元気にする仕事」について学ぶ、全国初の「コミュニティデザイン学科」（2014 年 4 月から東北芸術工科大学でスタートする予定）設立に携わっている。

■1月28日（火）　＜市場をつくる、社会をつくる＞

國領 二郎（こくりょう じろう）　慶應義塾常任理事

「ソーシャルな資本主義」

今のような時代こそ目先の変化に惑わされず大局をつかむことが肝心だ。ネット上で人やモノが結びつくことで生れる新しい価値やビジネスが社会にもたらす変化やリスク、これからの企業に求められることを國領教授が解説していく。

1959 年生まれ。東京大学経済学部経営学科卒業後、日本電信電話公社入社。1986 年にハーバード・ビジネス・スクール留学。1992 年同経営学博士取得後、1993 年に慶應義塾大学大学院経営管理研究科助教授となる。2000 年同教授。2003 年同大学環境情報学部教授。2006 年同大学総合政策学部教授。2009 年から 2013 年 7 月まで慶應義塾大学総合政策学部長を務めた後、2013 年慶應義塾常任理事就任。本講演タイトルの『ソーシャルな資本主義』は今年春に日本経済新聞出版社より刊行。

■1月31日（金）　＜素晴らしき哉人生＞

篠田 謙一（しのだ けんいち）　国立科学博物館人類研究部人類史研究グループ長

「人類 20 万年の旅と日本人の起源」

DNA 分析の進化は、従来考えられていた人類史を大きく変えた。20 万年前アフリカで生まれた我が祖先はいったい何者なのか？ミトコンドリア DNA を使った母系調査から遥かなる人類の旅と進化の研究を進める篠田氏がその成果を披露する。

1955 年生まれ。京都大学理学部卒、博士（医学）。産業医科大学解剖学講座助手、佐賀医科大学解剖学講座助手、同講師を経て、1996 年佐賀医科大学助教授となる。2003 年には活動の場を国立科学博物館へ移し、2009 年より現職。古代人の人骨試料などに残っているミトコンドリア DNA を分析して、過去における集団の移動や拡散、あるいはその起源についての研究を通じて、人類の歴史や「人間とは何か」を問い続けている。